

新たな支援機器開発領域（7領域13項目）

		心身機能・ 身体構造	活動				参加		
			運動		認知		就労	就学	レクリエーション・ 余暇
			移乗・移動	セルフケア・排泄	コミュニケーション	社会的認知			
身体障害	肢体不自由	#1. 健やかな暮らしの支援 #1-1. 日々の健康を管理する支援 #1-2. 心身の健康を維持・ 促進するための支援	#2. 多様化する生活に応じた セルフケア支援 #2-1. 多様化する生活に応じた支援 #2-2. 利便性と安全性を備えた支援	#3. 情報取得・発信支援 #3-1. 外出時の情報支援 #3-2. 緊急時の情報取得・発信支援	#4. 合理的配慮に 基づく就労支援 #4-1. 就労環境を向上する支援	#5. 盲ろう者の生活及び社会参加の促進支援 #5-1. 一人でも円滑に暮らすための支援 #5-2. 社会参加の促進支援	#6. 知的・精神・発達障害者の特性に応じた支援 #6-1. 感覚特性に応じた支援 #6-2. ことばを平易な表現に翻訳する支援	#7. 学び・遊び・楽しみの支援 #7-1. 障害に応じた学びの支援 #7-2. 様々な人と関わりを持つ 遊び・楽しみの支援	
	視覚障害								
	聴覚障害								
	盲ろう								
精神障害 発達障害・ 高次脳機能障害 含む									
知的障害									
障害児									


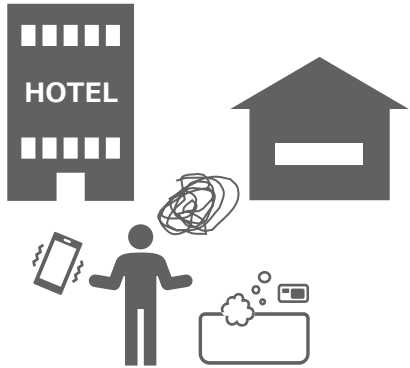
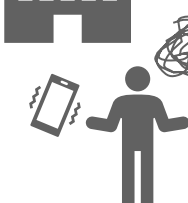

新たな支援機器開発領域#1. 健やかな暮らしの支援

領域	#1. 健やかな暮らしの支援 日々の健康管理や心身の健康維持・促進を支援する機器	
項目	#1-1. 日々の健康を管理する支援 障害者本人が日々の健康を管理することを支援する機器	#1-2. 心身の健康を維持・促進するための支援 心身の健康を維持・促進することを目的とした機器
主な対象者	障害者全般	
主な使用場面	日常生活全般	
対象者の現状課題	生活習慣病等、障害以外の健康課題を抱える障害者は少ない	医療機関等で機能訓練等を行い、心身の健康を維持する障害者は少ない
支援機器による課題解決の姿	障害者本人が支援機器を用いて健康管理等を自ら行うことによって、健やかな生活を送ることができる	遠隔システム等を用いて、自宅でもセラピスト指導による専門的な運動を行うことで、障害者の心身の健康が維持・促進される







※健やかな暮らしを支援する機器においては、一般的な健康増進機器や、医療機器とのすみわけを考慮する必要がある。

新たな支援機器開発領域#2. 多様化する生活に応じたセルフケア支援

<p>領域</p>	<p>#2. 多様化する生活に応じたセルフケア支援 多様化する障害者の生活に応じた汎用性、利便性、安全性の高いセルフケア支援機器</p>	
<p>項目</p>	<p>#2-1. 多様化する生活に応じた支援 多様化する生活に応じた汎用性のある機器や自助具</p>	<p>#2-2. 利便性と安全性を備えた支援 生活の利便性や安全性を考慮したユーザビリティが高い機器</p>
<p>主な対象者</p>	<p>肢体不自由者、感覚障害者等</p>	<p>障害者（特に視覚障害者）</p>
<p>主な使用場面</p>	<p>日常生活全般</p>	
<p>対象者の現状課題</p>	<p>個々の特性（障害や機能レベル）や多様化する障害者の生活に応じた生活支援機器がない</p> 	<p>スマホアプリ等で日常生活がある程度便利になっているものの、片手動作となる等、利便性や安全性に課題（外出時等）</p> 
<p>支援機器による課題解決の姿</p>	<p>個々の障害や機能レベルに応じてカスタマイズ可能な機器を用いることで、身の回りの動作がスムーズに行える</p> 	<p>ウェアラブルタイプや音声案内機能等の機能を有する機器を用いることで、外出先等での動作をストレスなく実施できる</p> 

新たな支援機器開発領域#3. 情報取得・発信支援


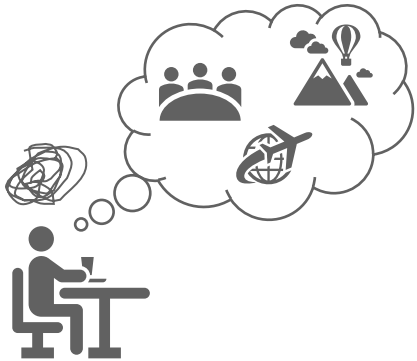


<p>領域</p>	<p>#3. 情報取得・発信支援 外出時・緊急時の情報取得や情報発信を支援する機器</p>	
<p>項目</p>	<p>#3-1. 外出時の情報支援 外出時の情報アクセスを容易にする機器</p>	<p>#3-2. 緊急時の情報取得・発信支援 緊急時の情報取得や情報発信を容易にする機器</p>
<p>主な対象者</p>	<p>障害者（特に視覚障害、聴覚障害、盲ろう者）</p>	
<p>主な使用場面</p>	<p>外出時（公共施設・交通機関等）</p>	<p>緊急時（体調不良、事故、災害発生時等）</p>
<p>対象者の現状課題</p>	<p>外出時の情報支援が未だに乏しい</p> 	<p>緊急時における情報の取得及び発信が困難</p> 
<p>支援機器による課題解決の姿</p>	<p>外出時であっても、必要な情報に容易にアクセスできる</p> 	<p>緊急時であっても、必要な情報に容易にアクセスできる 緊急時であっても、自分が伝えたい内容を周囲に伝えることができる</p> 

新たな支援機器開発領域#4. 合理的配慮に基づく就労支援





領域	#4. 合理的配慮に基づく就労支援 合理的配慮に基づく就労を支援する機器
項目	#4-1. 就労環境を向上する支援 障害のある人の活動等を制限しているバリアを取り除くこと等を通して、就労環境の向上を支援する機器
主な対象者	障害者（特に聴覚障害、盲ろう者、発達障害者）
主な使用場面	就労時
対象者の現状課題	IT機器やICTの活用等により、就労が実現している障害者もいるが、社会の中にあるバリアによって就労が難しい場合がある 聴覚障害者は、会議参加や周囲とのコミュニケーションの難しさから、継続的な就労に繋がらない場合がある
支援機器による課題解決の姿	同僚等とのコミュニケーション等を支援する機器の導入や、落ち着いて仕事に集中できることを支援する機器の導入等、就労環境を向上するアプローチをとることにより、継続的な就労が促される



新たな支援機器開発領域#5. 盲ろう者の生活及び社会参加の促進支援

<p>領域</p>	<p>#5. 盲ろう者の生活及び社会参加の促進支援 盲ろう者の自立した円滑な日常生活や社会生活を支援する機器</p>	
<p>項目</p>	<p>#5-1. 一人でも円滑に暮らすための支援 盲ろう者が一人でも円滑に暮らせるよう支援する機器</p>	<p>#5-2. 社会参加の促進支援 盲ろう者のコミュニケーションや社会参加を促進する機器</p>
<p>主な対象者</p>	<p>盲ろう者</p>	
<p>主な使用場面</p>	<p>日常生活全般</p>	<p>社会参加</p>
<p>対象者の現状課題</p>	<p>盲ろう者は、一日の生活の半分ほどの時間、介助者による支援が必要な状況となっている ATM操作や病院での検査などに苦慮している</p> 	<p>特に全盲者は、介護者とのコミュニケーション手段が確立されていない場合があり、社会参加を一層困難にしている 全盲者向けの支援機器も殆ど開発されていない</p> 
<p>支援機器による課題解決の姿</p>	<p>介助者の支援を減らし、障害者自身で身の回りのことができるようになる 当事者自身が、一日の生活時間における介助者支援の割合を主体的に選択、実行できる</p> 	<p>全盲者がひとりで活動できることを増やすことで、社会参加を促進する</p> 

新たな支援機器開発領域#6. 知的・精神・発達障害者の特性に応じた支援

<p>領域</p>	<p>#6. 知的・精神・発達障害者の特性に応じた支援 個々の特性に応じた支援を通して生活のしづらさを解消する機器</p>		
<p>項目</p>	<p>#6-1. 感覚特性に応じた支援 発達障害者の感覚特性（過敏・鈍麻）に対応した機器</p>	<p>#6-2. ことばを平易な表現に翻訳する支援 社会のルールや情報を平易な表現に翻訳する機器</p>	
<p>主な対象者</p>	<p>発達障害者</p>	<p>知的障害者</p>	
<p>主な使用場面</p>	<p>日常生活全般</p>	<p>支援学校等</p>	
<p>対象者の現状課題</p>	<p>感覚特性（過敏・鈍麻）に対し、ノイズキャンセリングイヤホンやサングラス等一般製品使用により工夫しているが十分でない場合がある（特に聴覚過敏）</p>		<p>社会のルールやニュースが分からず、取り残されるとい課題があり、生活のしづらさを抱えている障害者がいる</p> 
<p>支援機器による課題解決の姿</p>	<p>個々人の感覚過敏の状態に応じた支援機器を用いることで、生活のしづらさが解消される</p> 	<p>日々更新される情報（ニュース、制度、ルール、イベント等）を平易な表現に置き換えることにより、生活のしづらさが解消される</p>	

新たな支援機器開発領域#7. 学び・遊び・楽しみの支援

領域	#7. 学び・遊び・楽しみの支援 個々に応じた学びや遊び・楽しみを支援する機器	
項目	#7-1. 障害に応じた学びの支援 個々の障害に応じた学びを支援する機器	#7-2. 様々な人と関わりを持つ遊び・楽しみの支援 新たな活動の参加を通して様々な人々との関わりを楽しめるよう支援する機器
主な対象者	障害者全般	
主な使用場面	就学時	
対象者の現状課題	障害者向けの学習支援の機器は海外製品が多く、日本語への翻訳に苦慮している また、日本製のアプリ開発が進んでいない 学習や受験・試験等への対応が難しい	
支援機器による課題解決の姿	試験など学習を支援する機器を用いることで、就労支援に結び付き 社会で活躍する機会が増える	遊びや楽しさを支援することで、様々な人々と関わり合いながら楽しみ、心身の成長につながる

